



《なかよしルームでは…》

お母さんと一緒に、お店屋さんごっこをして楽しみました。  
 お店屋さんでは「いらっしゃいませ！」お客さんになって「これください」「ありがとう」  
 3つの言葉を覚えて、上手に言えました☆



《なかよしミニでは…》

夢咲公園のアスレチックでお父さんやお母さんと一緒に遊びました(\*^\_^\*)  
 みんなで一緒にお散歩をしながら、木の名前を知りました。  
 落ち葉やどんぐり拾いをして楽しかったです。  
 また、行きたいですね☆



「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

日 時： 12月19日(金) 10時から12時  
 内 容： 保育園の誕生会・クリスマス会にご招待！！  
 持ってくる物：エプロン  
 場 所： 地域子育て支援センター「さんこうぽぽら」  
 電話でお申し込み下さい。 TEL 31-6877



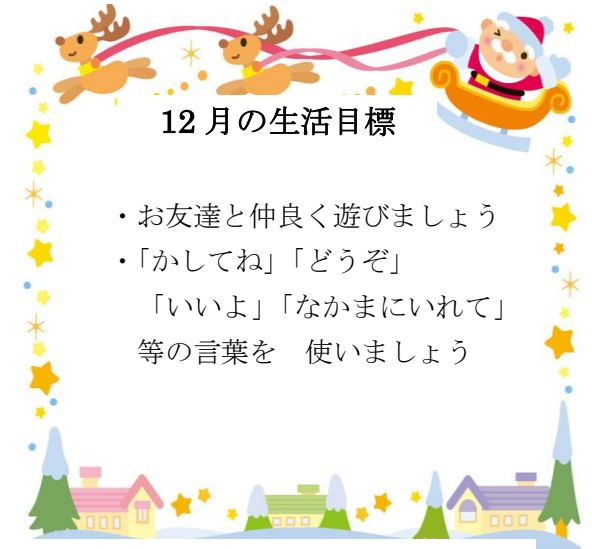
♪ 育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。  
 お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短期大学部教員による食育相談を行っています。★事前にお電話でお申し込みの上ご利用下さい。



永原学園地域子育て支援センター  
**さんこう・ぽぽら**だより  
 2014年12月発行 第91号  
 認定こども園 西九州大学附属三光保育園  
 TEL: 0952-31-6877



12月の生活目標

- ・お友達と仲良く遊びましょう
- ・「かしてね」「どうぞ」「いいよ」「なかまにいれて」等の言葉を 使いましょう

干し柿&干し芋

幼稚園も保育園も11月は、芋掘りや遠足と、園外に出て収穫の喜びを体験しました。土の中からお芋が出てくる驚きと、次々に掘り当てるお芋の大きさに一喜一憂しながら持ち帰った後は、各家庭と給食室で色々な料理に姿を変えて味を堪能しました。

ある3歳児クラスでは、帰り際担任が「おうちに帰ったらよく洗ってから食べてね」と2～3本ずつ持ち帰らせたところ、翌日お母さんから頂いたお便りには「よほど楽しかったのか、〇君は帰ってくるなり洗面所に駆け込み、次々とお芋を洗い“先生がよく洗ってから食べてねっていったからよく洗ったよ！早く食べたい！”と、私に手渡ししました(^ ^)。その様子を見ただけで子どもの感動が伝わってきました。」と結ばれていました。お便りを読んだ方も笑顔になってとても温かい気持ちになりました。種をまいたり苗を植えたりした後、最後には食べて楽しむ喜びがある体験は本当に貴重ですね。

園では、その後も収穫してきた芋を使って、干し芋づくりやクリスマスのリース作り、芋畑にたわわになっていた渋柿を頂いてきて干し柿づくりをしています。毎日、食品が変化していく過程を観察しながら、食べる日を今か今かと楽しみにしています。

園の通路には“サゲモン”のように干し柿や干し芋が連なり、昔の民家の軒下さながらです。興味のある方は、是非ご覧下さい。今年も残り少なくなりました。インフルエンザやノロウィルスに気をつけて、よいお年をお迎え下さい。(三光保育園園長)

「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。  
 ★第9回目の12月は、下記の日程で実施します。

日時 12月10日(水) 10:00～12:00  
 12月15日(月) 10:00～12:00

内容：クリスマス会

持ってくるもの：コップ

場所：地域子育て支援センター「さんこうぽぽら」

※事前のお申し込みが必要です。受付は、平日9:30～17:00

(いずれの日も先着16組の親子)



12月の「フリーデイ」について

保育園の支援センターを下記の日程で開放します。お好きな時間にお出かけ下さい。

日時： 12月16日(火) 10:00～12:00 ※事前の予約は必要ありません。

## 寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

子育て便り

### 「言語の発達と支援」

西九州大学子ども学科教授 眞田英進

人は言葉を操ることができる崇高な生き物です。言葉は有声や身振りでの表現を含め人と人をつなぎ交流し合う最も貴重な社会的道具としての能力です。言語習得能力は既に胎児期において、母親の心臓鼓動音とともに聴覚的に言葉刺激を傍受することから始まっている、とも推定できます（胎教の立脚点）。

出産からの歩みは、ある一定した順序で段階を踏みながら急速に発達を遂げて行きます。お母さんの生の声を聴き、模倣し、発声し、お母さんの身振りや表情を知覚しながら、心が芽生えてきます。赤ちゃんが声と身体で欲求を表現したとき、母親によって自分の思いが満たされると、さらに表現する意欲が高まります。時間とともに、あいまいな母音（喃語）発声からパパ、ママなどの明確な母音発声に移行します。言葉の理解と発語力が向上し、2歳頃には名詞や動詞の語彙が増してきます。知りたい気持ちが高まり、お母さんに「なに？」と言って、周囲の事物への指差しを始めます。どんな場面においても、養育者は愛情溢れた、子どもへの細心の関わりと配慮が大切な時期となってきます。

3歳段階になると、簡単な数や色の概念（意味）が理解でき、言葉で他人とのコミュニケーションが可能となります。その後、急速に語彙量が増し、5歳段階頃には基本的な言語能力が確立され、小学校就学への知的準備が整います。

以上のような、発達経過はあくまで一般的なもので、子どもそれぞれに発達速度に多少の差があるのは事実です。ただし、1歳半検診の頃になっても単語数語の理解が困難なようであれば、相談機関に訪問することをお勧めします。

さて、発達を促進する働きかけについてです。可愛い「わんわん（犬）」ね、きれいな「お花」ね、など場面ごとに子どもに言葉かけをしてあげましょう。2歳半前後からの排泄自立支援には、トイレへの誘いをして、うまく排尿できた時は愛情表現やほめ言葉を忘れなく、場面ごとの適切な言葉かけが大切です。

子どもが興味を示す内容の「絵本の読み聞かせ」機会の提供も重要です。一緒読みによって、子どもの想像力や好奇心が膨らみ、理解・記憶する力、推理力が増します。以上のように、子どもの言語の力（心の豊かさ）は、養育者からの愛情深い細心の関わりと豊かな言語環境の中でこそ培われるものなのです。

食育便り

### 「味覚は健康のバロメーター」

西九州大学 健康栄養学部 健康栄養学科教授 安田 みどり

味覚は人の五感の一つであり、生きていくために必要な能力であります。生理学的には、甘味、酸味、塩味、苦味、旨味の5つが基本味に位置づけられます。味は、舌の上の「味蕾（みらい）」という器官で刺激を受け取っています。味の正体は、甘味は砂糖、酸味はクエン酸、塩味は塩化ナトリウム、苦味はカフェイン、旨味はグルタミン酸等であります。酸味や苦味は低い濃度でも分かるようになっていて、酸味は腐っているよ、苦味は危険な物質だよということを一早く教えてくれます。まるで、センサーのようです。そうそう、最近、九州大学の都甲潔先生を中心としたグループが「味覚センサー」を開発されました。人間の感覚では、味をあいまいな表現でしかできませんが、味覚センサーは5つの味を数値化することができます。これにより、食品の品質管理や製品のブランド化・差別化ができるようになりました。

しかし、食べ物の味は、最終的には人で評価したいものです。西九州大学健康栄養学科では、1年生を対象として食味テストを行っています。管理栄養士を養成している学科ですので、将来、味の分かる管理栄養士となるための味覚教育、また、佐賀県産の極上海苔「有明海一番」を選定する食味検査員の認定試験を兼ねて行っています。「有明海一番」とは、県と有明海漁協が平成19年度から売り出された極上海苔で、消費者の視点から味を厳選してもらおうと食味検査員が募集されました。食味テストには、人間が感じるギリギリの濃度の5種類の水溶液と無味の水を飲み比べ、5つの味を識別するという味覚テストと、3種類の海苔を食べ比べて柔らかさの順序を判定するテストがあります。合格の基準は、4味以上を識別し、海苔の柔らかさの順序をすべて当てるというものです。このテストがなかなか難しく、例年の合格率は約3割程度。実は、私、初年度に不合格となり、反省をして薄味で1年間を過ごし、2年目に見事リベンジを果たしました。味覚検査のお陰で減塩やダイエットができたかな?と、思っています。しかし、どうしても苦手な味があります。それは、「苦味」です。年々ストレスがたまり、コーヒーをついつい飲みすぎ、苦味がマヒしてしまっています。苦味が分からないときは、ストレスがたまっている証拠。味覚検査は、体と心の健康診断ともいえますね。

以前、食育のイベントで一般の方向けに味覚検査を行ったことがあります。3世代すべて合格されたご家族、逆にすべて不合格のご家族がいらっしゃいました。家族で同じものを食べますので、調理する人の味付けに影響されるのでしょうか。家の味付けは代々受け継がれるもの、気を付けてくださいよ！

